

# 帆走技術判定・安全講習会

稲毛ヨットハーバーの艇長は『帆走技術判定』を受け一定の帆走技術を持っていることが必要となります。この一定の帆走技術というのは、(公財)日本セーリング連盟で施行しているバッジテスト制度の5級の帆走技術が基準となっており、ヨットについての基礎知識を持ち、平易な気象状況下において出艇から帰港まで安定したセーリングができ、しかもシーマンとしての良識を有しているものに資格が与えられることになっています。したがって帆走技術判定では、帆走技術のみならず、ルール、ロープ結びなどもチェックされ、これが合否を分けるポイントとなることも多々あります。帆走技術については、まず出艇時の安全確認をします。もやいを離す前の周りの確認から、真直ぐ風下に艇をバックさせ、波舵の技術等がチェックされます。テストコースでは、クローズホールド、フリー、ランニングの帆走が安全に行われているかをチェックします。またタックやジャイブの時における技術と安定度を、そして最後に着艇についても出艇時と同様な観点でチェックが行われテストが完了します。一人当たりのテスト時間はほんの数分ですが、検定員の目は、とにかく安全なセーリングをしているか、言い換えれば『沈』や『事故』等につながる危険なセーリングをしていないかというところに向けられています。微風でスムーズにテストが終わったからとて、合格とは限りません。また上手でなかったからとて不合格とは限りません。一にも二にも安全に、そして楽しく稲毛ヨットハーバーのヨットマングループの一員になりましょう！！

- ☆ 帆走技術判定 (当日受付) ・受付 9:30～ (窓口にて、判定料¥1,000) ・試験開始 10:00～  
・持ち物 ヨットに乗れる服装 (裸足、サンダルやクロックスは不可)  
※日本セーリング連盟バッジ5級以上取得者は、帆走技術判定が免除になります。



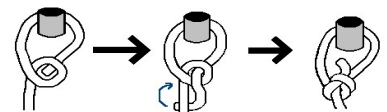
**合格したら! または日本セーリング連盟バッジ初級5級以上取得者!**

- ☆ 安全講習会 (当日受付) ・開始時間 14:00 (約2時間くらいの講習)  
◎受講対象者: 帆走技術判定合格者 及び 日本セーリング連盟バッジ初級5級以上取得者  
・持ち物 筆記用具 (ボールペン), 写真1枚 (タテ3cm、ヨコ2.5cm)  
※帆走技術判定が免除の日本セーリング連盟バッジ初級5級以上取得者は、バッジのカードを持参  
◎日程につきましては、ホームページ (<http://chibacity.spo-sin.or.jp/>) の  
「稲毛ヨットハーバー年間行事予定表」をご覧ください。

## ロープワーク

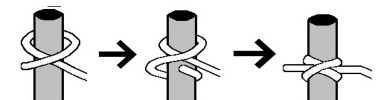
### ① ボーライン・ノット (もやい結び)

海のロープワークの王と呼ばれるもので、つくった環は広がらず挟まれません。水位の上下にともない、もやい索が上下して船が首をつることなく、水に沈みません。



### ② クラブヒッチ (まき結び)

とっくり結びとも呼ばれます。簡単な結びですが、ほどけにくい結びです。環をつくって、かぶせる結び方は感心しません。



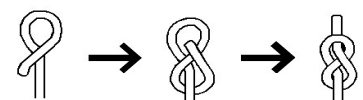
### ③ ダブルシート・ベント (ふたえつなぎ)

太さの異なるロープをつなぎ合わせるのに、この結びをぜひ覚えて下さい。判定受講者の最も苦手とする結びです。



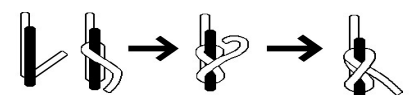
### ④ エイトノット (8の字結び)

この結びはロープの端のたんこぶです。ほとんどの人が結べるようです。



### ⑤ クリート・ヒッチ (クリート結び)

一昔前のクリートはこの形式が多く、現在あまり使われませんが正しく結べる人は少ないようです。

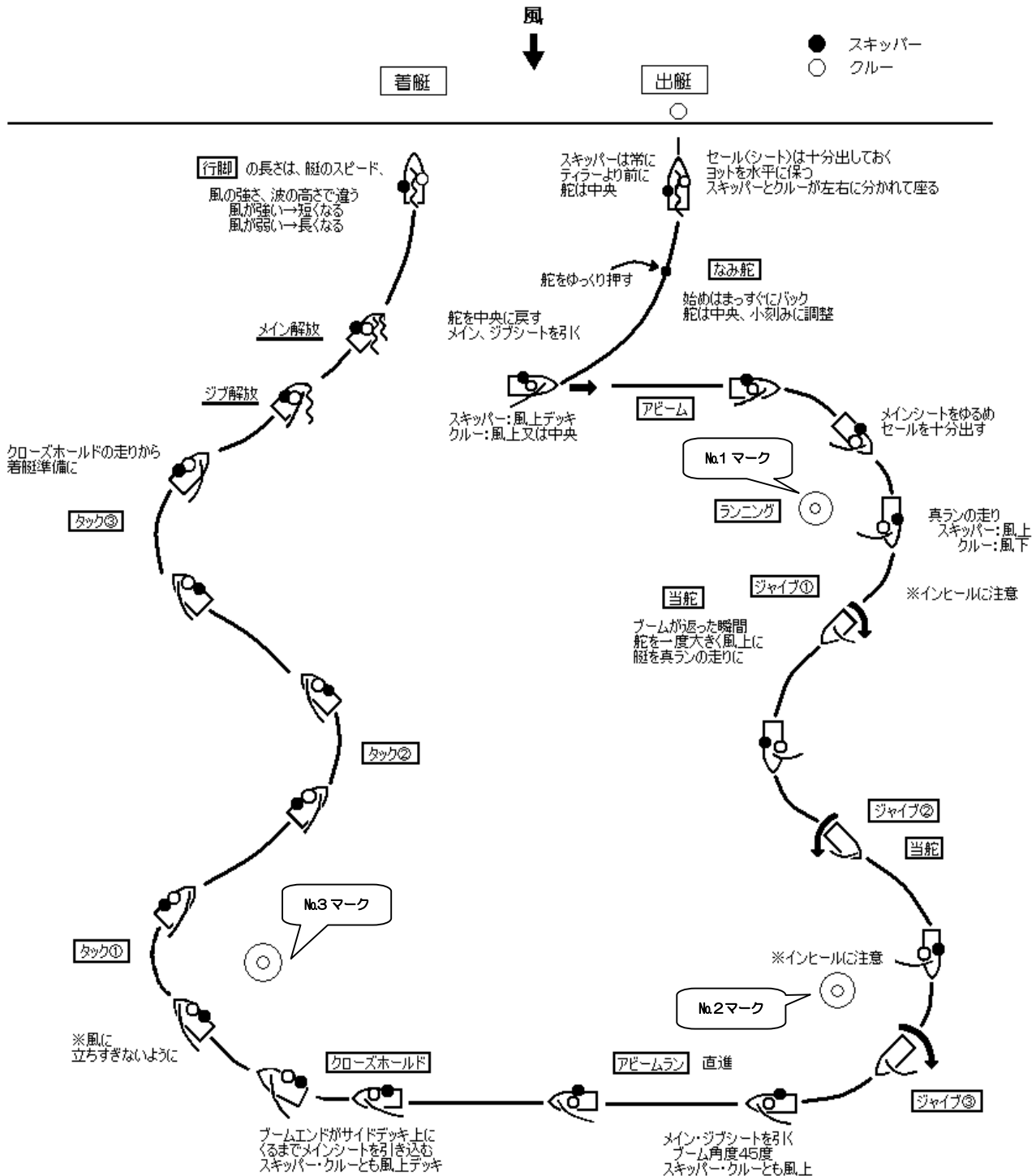


## 基本ルール（3原則）

- ① ポート・スターボード
- ② 風上・風下
- ③ クリアスターン・クリアヘッド

## 帆走技術判定のコースとポイント

※下記のコースは右回りですが、風向きによって左回りの場合もあります。



コースを順を追って説明しますと、まず、波舵で発艇します。この際、大舵を切らないように。アビームランから上No.1マークをベアしてまわり、ランニングで下マークNo.2に向う間にジャイブ（3回以上）を行います。再びアビームでNo.3マークに向い廻航したら、クローズホールドに入ります。タッキングを3回以上行い、クローズホールドの状態から着艇準備をし、最後はセールから風を抜き、行脚にて着艇します。

（海上のコースを使うのが基本ですが、本判定では、コースを省略しポンド内で試験を行います。）